



台風12号の三重県への被害状況を目の当たりにし、自然の恐ろしさを痛感している今日この頃ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、今回は、7月に行われました全国公立小中学校事務研究大会の様子を中心に、8月に行われました第2回研修講座も簡単にご紹介します。

全国事務研（鳥取大会）

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」という大会テーマのもと7月27～29日の3日間、鳥取県鳥取市内において第43回全国公立小中学校事務研究大会が行われました。新学習指導要領の全面実施を機に、教育課程の編成・実施を教員とともに実現する事務職員の新たな役割を考え、学校事務の機能や在り方を追求するという目的で、1日目に全体会、2日目に6分科会の研究提案、3日目はまとめの会が行われました。



とりぎん文化会館



全体会の様子

《全体会》

地域とともにある学校の方向性といった今後の学校の在り方を社会情勢も踏まえながら話を聞くことができました。

子どもの数は将来5割減となります。人口の減少により今までやってきた方法では当たり前にはできないことが増えていきます。学校は発想を転換し、地域貢献の視点をもたなければなりません。

また、子どもたちが社会の一員として成長していくことは新しい学校づくりの視点でもあることを教えてもらいました。

学校の発展は、まちの発展につながる、新しい公共に学校がどう組み込まれるかが重要です。どんどん教育改革が進められていく中、説明責任を果たすだけではなく、こちらからアイデアを出して打って出さなければいけません。「21世紀を担う子どもたちを育てている、学校の組織の一員としての使命感を持ってほしい。」「違う職種なので違う視点で学校経営に参画してほしい。」というパネリストの方の言葉に、事務職員への期待を感じました。事務職員の役割として「つなげる」を意識していきたいと思いました。（研修部 福島）

《分科会》

「教育課程は日々の実践」という分科会テーマに、あすからの実践に生かせる取り組みが見つかるのではないかと期待して参加しました。

岡山市では、岡山型一貫教育に中学校区で組織する共同実施の事務長が連携・つなぎの役割を果たし、地域の教育力向上のために貢献する体制になっています。事務長に権限はありませんが、学校連携の効果を高めるための提案やとりくみに際し、他職種や関係機関などとの連絡調整役として事務長発令は効果的に機能しているそうです。

1人ひとりの事務職員は、勤務校や共同実施組織において教育課程の実施と実践を関連づけ、カリキュラムマネジメントを意識して、「トータルプロデューサー」をめざしています。事務職員が「カリキュラム検討委員会」「校納金検討委員会」などに出席していることや、教員も参加する地域の研修会で、学校予算の提案を行った実践が報告されました。岡山県内各地の共同実施では、各地で様々な取り組みがなされ、その様子は岡山県教育庁教職員課HPに掲載されています。

助言者からは『日々の実践が教育課程に役に立っているという実感と自覚が大切』、『事務職員の実践が、学びに連続性・学校の教育力を高める日々の教育活動の実践に結びついていることが大切』という助言がありました。また、『何もかもではなく、キャリアの深化に伴う取り組みに優先度がある。①日常の事務執行を確実にする（若い事務職員のいる学校は特に）、②学校予算の効



第6分科会の様子

率的な編成と計画的で適正な執行、③学校教育目標、校長の経営ビジョンの理解、④ 特色ある教育活動への企画・参画、と実践を進めてほしい』という校長先生の助言もありました。

事務職員自身が「学校の教育目標と結びついた活動を支援」し、それを教員が直接的な「教育活動に結びつける」という意識をもって教員とコミュニケーションをとり、その意識があることで、教育課程に参画していく見通しがもてるのではないかというヒントを得ました。(会長 釜須)



引継式の様子

《基調提案》

基調提案では、私たち事務研究会が掲げている「子どもの豊かな育ちを実現する」から話が始まりました。この「子どもの豊かな育ち」はどこがゴールなのか？私たちの教育活動は子どもが成長していく過程の初期段階の係わりでしかなく、その間に達成されるものではない。

むしろその先、子どもたちが社会に出て一人前の大人として生活が送れるとなった時に初めて、この育ちが本当に豊かであったのか、幸せな育ちであったのかがわかる。義務教育期間で子どもの育ちについての教育が終わるのではなく、その先の長い人生を

見据えてその9年間の教育を考える事が重要であるとお話でした。

そのために我々事務職員が出来ることはなんなのか？効率的な事務処理を追求し、子どもと関わる教員の時間を少しでも確保するのも一つの方法である。子どもが授業で使用する備品の調達や管理等で授業の質を手助けするのも一つの方法である。直接的指導に携わるのは無理であっても、休み時間に子どもたちと触れってみるのも、その子どもの人生経験の中では必要なことであると思う。色々な方法と切り口について、多種多様な意見はあるが、忘れてはならないのは「子どもの豊かな育ちを実現する」という意思を常に持ち行動していくことだと、改めて確認できた講演でした。(研究部 陸)

《大会雑感》—— 記念講演 ——

大会に先立ち、3.11東日本大震災による犠牲者への鎮魂と復興を願い黙とうを捧げました。

全国から、2100余名の参加者を迎え、鳥取大会実行委員長によるひとこと一言をかみしめるような挨拶は、誠意と感謝と熱い歓迎の気持ちがダイレクトに伝わってくる開会宣言でした。

鳥取県支部は300人足らずの規模でありながら、今回の大会開催を受けたと同時期に「鳥取ショック」(学校事務職員3級格付けを上限とする)と呼ばれる危機を乗り越えた支部でもあります。県教委や文科省への陳情を繰り返し、事務職員が学校で果たす役割を各方面で訴え、理解を求める活動を行いました。

今回、記念講演を頂いた片山善博前総務大臣との関係にも鳥取支部のみなさんの熱意あふれる取り組みが感じられます。

鳥取での全国大会開催が決まった4年前、実行委員長は、直接、片山元鳥取県知事に講演依頼にいかれたそうです。それを受けて知事は、学校で事務職員は何をしていて、どのようにキャリアを積み、課題を持っているのかを調べられたそうです。そして、鳥取の事務研はすばらし人材の宝庫と表現されたことには驚きました。

大会運営をとおして得られる諸課題を解決していく能力や、関係機関に説明する力などの経験は、学校の経験では得られないスケールでキャリアアップとなります。また、歓迎のためのホスピタリティーは、学校事務職員が『地域とともにある学校』の窓口としての役割を果たす重要な能力獲得の機会となるのではないのでしょうか。

実は、記念講演講師の片山大臣の鳥取行きは、大会前日の夕刻に最終決定したそうです！VIPだけに警備が厳重で、報道のカメラも多くセットされ、物々しい雰囲気の中で講演が始まりました。

片山大臣は、鳥取県知事時代も、地域の学校に子どもたちを通わせ、保護者として、学校の奉仕作業にも保護者会にも欠かさず出席されたそうです。

現場を見て、いち早く県単独の35人学級を実現し、学校図書館の充実も実施されました。話術が巧みなのではない、人間的なすがすがしさが感じられる魅力的な講演でした。



閉会式の様子

特集テーマは『教育課程の実施と学校事務』。事務職員のミッションである「子どもたちの豊かな育ちを支援する学校事務」の具現化のため、教育課程の実施における学校事務の機能と事務職員の役割を追求する大会でした。

また、東日本大震災によって地域コミュニティと地域における学校の役割は重要性を増しています。学校は、地域の防災拠点であり、地域とともに子どもの育ちを支援し、地域の担い手として子どもが巣立つ場です。そして学校運営を担う事務職員は、地域との連携に重要な役割をはたすことが求められていることを感じた大会でした。（会長 釜須）

第2回研修講座

8月10日（水）大紀町コンベンションホールで、第2回研修講座を開催しました。ご参加いただきました会員の皆様、厳しい暑さの中、また遠方よりお越しくださいまして誠にありがとうございました。

講座（午前の部）

○テーマ 「小・中学校における伝統文化教育の大切さ」

○講師 皇學館大学 現代日本社会学部
准教授 岩崎正彌さん

○内容 日本の伝統文化を俯瞰し、特に「芸道」「建築」「工芸」「芸能」の各分野において、具体的な画像や映像を見ながら、わかり易く解説していただきました。



岩崎正彌さんの講演

講座（午後の部）

○テーマ 「お茶づくりは地域づくり人づくり」

○講師 深緑茶房 代表取締役 松本浩さん

○内容 お茶づくりを通じて、会社経営の具体的な体験談を交えながら「ひとづくり」「組織づくり」「社会の一員としての企業」についてを中心に講演いただきました。



松本浩さんの講演

実践発表「てつこの部屋」（午後の部）

○テーマ 「お悩み相談」

○司会 三重県小中学校学校事務研究会
会長 釜須・副会長 岩瀬

○内容 寄せられた3つの相談について、司会が会場から意見をもらいながら相談を解決するしていく形式で、各支部の共同実施の実践発表を行いました。

相談1つ目の「コピー代の節約」については四日市支部、2つ目の「共同実施の円滑な分業」については志摩市と名張市の実践発表が行われ、3つ目の「共同実施グループのリーダーから若い世代へのメッセージ」については複数の共同実施グループのリーダーからメッセージが寄せられました。各実践やメッセージから、今後のやる気につながるヒントをもらえるような企画でした。



「てつこの部屋」

研究大会のご案内

いよいよ 50周年記念大会です。
OBの方々もたくさんご参加いただきます。
会員のみなさまのご参加をよろしくお願いいたします。

第48回 三重県公立小中学校事務研究大会

1. 日程：平成23年10月21日（金）
受付開始 9:30 ～（終了予定16:45）
2. 場所：三重県総合文化センター 三重県文化会館 中ホール
3. 発表支部及び研究テーマ
津支部 「描こう！ OURデザイン♪」－新たな役割を考える－
4. 基調提案
教育活動活性化計画について 研究部提案
5. シンポジウム
第1部 三重県に関わっていただいた講師の方々から未来への提言
第2部 つなげよう学校事務

《駐車場工事中》

三重県博物館建設工事に伴う、総合文化センター駐車場工事が継続中です。
大変ご不便をおかけしますが、公共交通機関利用または乗り合わせなど、ご協力いただきますようお願いいたします。

《資料の代理受け取りのお願い》

今回の『研究集録』は記念誌のためページ数が多く、手提げ袋に記念品も入っています。欠席される会員の皆様は、ご参加される方へ代理受領をお願いさせていただきますようご協力をお願いいたします。

